

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ意見まとめ

地区	蒲郡北地区	回数	第4回
日時	2021年8月22日(日) 13:30-16:30		
参加者数	28名		

1. 再配置プラン案について

1) A案「通学の安全を確保し、学校規模の適正化を図るプラン」

【期待すること】

国道247号を学区の境界にするのは妥当だと思う。ただし、西部小の分割を地域の方がどう思うかが懸念だ。

- ・ 学校通学区域の見直す場合に国道を境界にするのは妥当な考え方だと思う。ただし、西部小が分割統合されることに地域の方がどう思うか懸念する。

【不安なこと】

国道247号は信号や歩道も整備されており、今後国道23号バイパスの延伸により交通量が減少することも想定されるため、むしろ歩道のない道路や路地の方が安全面で気になる。

- ・ 国道247号は道幅も整っており、信号の整備、歩道も整備されているので、横断通学リスクの分岐点とは考えにくい。
- ・ 今後、国道23号が豊川方面に延伸された場合、国道247号の交通量も減ってくるのではないか
- ・ 幹線道路よりも、歩道のない狭あい道路や路地の方が安全面で気になる。

場所によっては中学生が自転車通学するより長い距離を、小学生が徒歩で通うことになる。

- ・ 中部中へ自転車通学する距離より遠いところから小学生が徒歩で通うことになるためスクールバスよりも西部小を残してほしい。

保育園から小学校の一体感が生まれる一方で、途中から入ってくる子が疎外感を受けないか。(B・C・D・F案共通)

- ・ 保育園から小学校の一体感が生まれる一方、途中から入ってくる子が疎外感を受けないか？が心配。

西部小が無くなってしまうと、地域の魅力が薄れ、衰退を招きかねない。(B・E・F・G案共通)

- ・ もともと西部地区は土地の規制で新しい住宅が立てにくく、人口が増えにくい。さら

に西部小学校や保育園が近くなるに近くなると心配。ミカン農家の担い手も減って、地域の産業の衰退にもつながる。

- ・ 西部小学校や保育園が近くなるに近くなると、地区の利便や魅力が減って一層に人口が減って衰退してしまうのが心配。
- ・ 西部小学校をなくすのは地域の崩壊につながるのではないかと思う。

西部地区には公園が無く、小学校の校庭は子どもの遊び場、居場所としても必要。(B・E・F・G 案共通)

- ・ 西部地区には公園が無く、小学校の校庭は子どもの遊び場、居場所としても必要。

【提案】

東西に通じている国道 247 号で学区を分けるのではなく、南北に北部小、中央小へと分けるのはどうか。

- ・ (横軸の) 国道 247 にこだわらず、(南北方向の) 縦で割って、近い方で学区を割りを考えるのも良いと思う。(例) 神ノ郷、山本→北部。向山、門前→中央。宮成は距離によって分かれるなど。

2) B 案「北部地区と西部地区の新たな交流拠点をつくるプラン」

【期待すること】

西部小と北部小の真ん中にある中部中の敷地に新しい学校を作るので、両地区の住民にとって歩み寄りやすい案だと思う。

- ・ 西部小も北部小も真ん中にある中部中学の敷地に歩み寄って新しい学校を一緒につくるという印象なので、集約するのなら両地区の住民にとって歩み寄りやすい案と思う。

中学校が大規模になることに不都合はないと思う。(D 案共通)

- ・ 中学校の規模について、自分は中部中に分かれる前の蒲郡中学に通っていたが、1 学年 10 クラスで 1 クラス 60 人いた。中学校が大規模になることに不都合はないように思う。
- ・ 私は、2 校に分かれた直後に蒲郡中に入学したが、その時でも 1 学年に 7～8 クラスあったと思う。生徒数が増えればその分教職員も増えるので問題ないと思う。

北部、西部保育園から小学校への一体感が生まれるのは評価できる。(F 案共通)

- ・ 北部、西部保育園から小学校への一体感が生まれるのは評価できる。

【不安なこと】

中学校敷地に多くの施設を集約するが、敷地規模は十分に足りているのか。(E・F・G 案共通)

- ・ 中学校敷地に多くの施設を集約化するが、敷地規模などは十分に足りるのか。無理して詰め込むのも良くないと思う。

保育園から小学校の一体感が生まれる一方で、途中から入ってくる子が疎外感を受けないか。(A・C・D・F 案共通)

西部小が無くなってしまうと、地域の魅力が薄れ、衰退を招きかねない。(A・E・F・G 案共通)

西部地区には公園が無く、小学校の校庭は子どもの遊び場、居場所としても必要。(A・E・F・G 案共通)

中学校の統合に問題はないが、中学生の通学距離が長くなることが懸念される。(D 案共通)

- ・ 中学生の通学路が長くなることが懸念される。子どもが蒲郡中学校に統合するのは問題ないと思う（以前はそうだった）。

市内の他の中学校と規模の格差が大きくなると、部活動などで有利不利が出てしまう。(D 案共通)

- ・ 他の市内中学と規模の格差が大きいと部活動など学校対抗で有利不利が出てしまう。

中学校を統合する際に、新たに校舎を建てたり、敷地を広げることになれば費用面の問題があるのではないか。(D 案共通)

- ・ 中学校を統合する際に、新たに校舎を建てたり、敷地を広げるようなことになれば費用面の問題があるのではないか。

中学校の統合にあたり、レベルの差など就学調整が必要なのではないかと思う。(D 案共通)

- ・ 中学校の統合にあたり、レベルの差など就学調整が必要なのではないかと思う。

【提案】

スクールバスがあると中学生の通学の安全性を確保できる。(D 案共通)

- ・ 昔は赤日子神社の近くに住んでいながら蒲郡中学校に通った。子どもが通うのに通学

用のバスなどがあれば安全性を確保することが出来るのではないか。坂本地区などはかなり遠くなるので通学バスなどがあると良いのではないか。

中央小学校校区の一部の人は塩津中へ通えば、蒲郡中の巨大化を抑制できるのではないか。ただし、その場合、校区の再編による混乱も懸念される。(D 案共通)

- ・ 中央小学校校区の一部の人は（統合後の）蒲郡中学校に通うのではなく、塩津中学校に通うなどすると、蒲郡中学校の巨大化を抑制することになるのではないか。ただし、その場合、校区の再編など混乱をきたすことも懸念される。

3) C 案「地域の交流拠点をつくるプラン」

【期待すること】

各地域で交流拠点を作るプランであり、地域本来の姿を活かしたプランである。

- ・ 各地域で交流拠点を作るプランであり、地域本来の姿を活かしたプランである。

西部地区、北部地区のコミュニティがそのまま維持される点は評価できる。(D 案共通)

- ・ 西部地区、北部地区はそれぞれにコミュニティが形成されているので、そのままコミュニティが維持される点は評価できる。

西部小は人数が極端に少ない学年もあり、子どもによっては仲良くしにくい状況もでてくる。中央小から子どもたちが来て、西部小の人数が増えるとバランスも良い。

- ・ 西部小はクラスによっては人数が極端に少ないため、人によっては仲良くしにくい状況も出てくる。中央小から子ども達に来て西部小の人数が増えるとバランスも良い。

中央小は、もともと西部小と南部小の学区からできたため、中央小が分かれるのはあまり違和感がない。(E 案共通)

- ・ 元々西部小学校と南部小学校の統合で中央小学校ができたため、中央小学区が分かれるのはあまり違和感がない。

児童数の減少により学校を再編する場合、過去に新設した学校から見直しを計っていくのが順序のような気がする。(E 案共通)

- ・ 仮に児童数の減少により学校を削減する場合、児童数が増えたことで新設した学校から見直しを計っていくのが順序のような気がする。

【不安なこと】

西部小学区、北部小学区ともに市街化調整区域が多く、今後も人口が増える見込みがない。(D 案共通)

- ・ 西部小学区も北部小学区もともに市街化調整区域がほとんどを占めて、今後も人口が増える見込みはないのは同じ。

※事務局注釈:西部地区については国道 247 号線の北側と地区の大半を市街化調整区域が占めていますが、北部地区については市道宮成町清田前田1号線(北部小学校北側道路)より南側及び西田川西側の地域が市街化区域に指定されている状況です。

学校規模の適正化や財政面の解決につながらない。(D 案共通)

- ・ 西部小学校の規模が改善しないため、学校規模適正化や財政面からも大きな解決にはならない。
- ・ 学校規模適正化や財政面からも大きな解決にはならない。
- ・ 保育園が3園のまま維持されるのは、もともとの将来負担の削減の面から大丈夫なのかと思う。西部保育園と北部保育園は1つになってよい規模ではないか。

小中学校規模適正化方針では、中央小は標準規模を確保しており、あえて分離する必要性を感じない。(E 案共通)

- ・ グランドデザインでは中央小は標準規模を確保しており、あえて分離する必要性を感じない。

中央小がなくなってしまうと、通っている児童や地域コミュニティはどうになってしまうのだろうか。(E 案共通)

- ・ 中央小学校がなくなるので、そこに通う児童やコミュニティはどう考えるだろうか？
- ・ 中央小学校がなくなることによって、地域コミュニティ（お祭りや子ども会）はどうになってしまうのか？という懸念がある。

中央小を西部小と南部小に分ける際に、学区境をどこに設定するかが課題。(E 案共通)

- ・ 中央小学校の学区を西部小学校と南部小学校に分ける時にどこに学区境を持ってくるかが課題

中央小が避難場所になっており、避難場所が今より高台に移るのはよいが、遠くなるのは心配だ。(E 案共通)

- ・ 防災の面で中央小が避難場所になっているが、より高台になればよいが今より遠くなるのは心配だ。

保育園から小学校の一体感が生まれる一方で、途中から入ってくる子が疎外感を受けないか。(A・B・D・F 案共通)

【提案】

西部小エリアは市街化調整区域のため子どもが増えづらいので、小学校を存続させるのであれば、どういう機能を持たせるのか議論すべきである。(D案共通)

- ・ 西部小エリアは調整区域であることが子ども達の人数が増えない理由の一つにある。都市計画上の制約は今回の議論外ではあるものの、市側にはそのあたりも理解を示してほしいので、西部小を存続させるなら、どういう機能を持たせるのかを議論したほうがよい。

西部小は小規模校という利点を活かし、他では学べないことを学べたり、学びにくい子どもが学ぶことができるなど、市の中で特別な学校となってもいいのではないか。(D案共通)

- ・ 西部小は少ない人数の小学校という利点を活かし、学べないことを学べる学校や、学びにくい子どもが学べるなど、市全体の中でもスペシャルな学校になってもいいのではないか。

地域コミュニティ維持の観点から、西部小のような小規模校も選択肢のひとつとして、公民館や保育園と集約化して維持してはどうか。(D案共通)

- ・ 地域コミュニティの維持という面で、西部小のような小規模で特徴ある面白い学校を選択肢に挙げてもらいたい。(蒲郡市全体の中で西部小モデル的なものがあってもいいのではないか。)
- ・ わざわざ集約化する必要はない。公民館や保育園と集約化することで小規模校を維持していければ一番よい。

栄町在住の子は塩津小に行くのも良いかもしれない。(E案共通)

- ・ 栄町在住の子は蒲郡南部小学校に行くことになるだろうか？塩津小でも良いのかもしれない。

4) D案「地域性を維持し、各地に子育ての拠点をつくるプラン」

【期待すること】

3つの小学校が維持でき、既存の地域コミュニティを保つことができる。

- ・ 3つの小学校区の地域性が維持できる案だとおもう。
- ・ 地域コミュニティが壊れないのが評価できる。

西部地区、北部地区のコミュニティがそのまま維持される点は評価できる。(C案共通)

小学校、保育園、公民館が一緒になることで、送迎の負担が少なくなる。また、地域で見守るといふ点でも良いと思う。

- ・ 小学校、保育園、公民館が一緒になるのは、子育て世代からしても、小学校、保育園が一緒になることで毎日の送迎への負担が少なくなるのではないかと。また地域で見守るといふ観点でも良いと思う。

中学校が大規模になることに不都合はないと思う。(B 案共通)

【不安なこと】

施設の集約が少ないので、将来負担が課題となる。

- ・ 施設の集約化があまりされないため、将来の負担が課題になるかもしれない。

学校規模の適正化や財政面の解決につながらない。(C 案共通)

西部小の規模適正化の解決にならず、人数が少なく仲良くしにくい状況も出てくる。

- ・ 西部小学校が存続することは、学校規模適正化の解決にはならない。
- ・ 西部小の学校規模が改善しないため、子ども達の人数が少なく仲良くしにくい状況も出てくる。

西部小学区、北部小学区ともに市街化調整区域が多く、今後も人口が増える見込みがない。(C 案共通)

保育園から小学校の一体感が生まれる一方で、途中から入ってくる子が疎外感を受けないか。(A・B・C・F 案共通)

中学校の統合に問題はないが、中学生の通学距離が長くなるのが懸念される。(B 案共通)

市内の他の中学校と規模の格差が大きくなると、部活動などで有利不利が出てしまう。(B 案共通)

中学校を統合する際に、新たに校舎を建てたり、敷地を広げることになれば費用面の問題があるのではないかと。(B 案共通)

中学校の統合にあたり、レベルの差など就学調整が必要なのではないかと思う。(B案共通)

【提案】

地域ごとに施設を残すことで財政的に大きな解決に至らないのであれば、無理して建替え、複合化するのではなく、現在の建物を長期にわたって使用するのがよいだろう。

- ・ 地域毎に教育施設を残して財政的に大きな解決に至らないのであれば、そもそも無理して複合化する必要もないのでは？
- ・ 財政的に考えても集合することはコストがかかるのではないかとと思うが、延命をしつつ使用していくのが良いだろう。

中央小学校区の一部の人は塩津中へ通えば、蒲郡中の巨大化を抑制できるのではないかと。ただし、その場合、校区の再編による混乱も懸念される。(B案共通)

西部小エリアは市街化調整区域のため子どもが増えづらいので、小学校を存続させるのであれば、どういう機能を持たせるのか議論すべきである。(C案共通)

西部小は小規模校という利点を活かし、他では学べないことを学べたり、学びにくい子どもが学ぶことができるなど、市の中で特別な学校となってもいいのではないかと。(C案共通)

地域コミュニティ維持の観点から、西部小のような小規模校も選択肢のひとつとして、公民館や保育園と集約化して維持してはどうか。(C案共通)

スクールバスがあると中学生の通学の安全性を確保できる。(B案共通)

5) E案「充実した教育の拠点と世代間交流の場をつくるプラン」

【期待すること】

地域の子どものひとつの小中学校で学べるのは良いと思う。

- ・ 個人的には理想的な案だと思う。ひとつの小中学校で学べるのは良いと思う。

小学校と中学校で連携ができるという点は評価できる。(G案共通)

- ・ 小学校と中学校の連携というのは評価できる。運営の難しさは決まってしまう先生方は従うだろう。

中学校と公民館を同じ敷地にする事で、思春期の中学生にも良い影響があるのではないか。(G 案共通)

- ・ 中学生は思春期で扱いが難しい。中学校と公民館を同じ敷地にして、地域に開いた中学校にする事で、そうした難しい中学生に良い影響があるのではないか。

中央小は、もともと西部小と南部小の学区からできたため、中央小が分かれるのはあまり違和感がない。(C 案共通)

児童数の減少により学校を再編する場合、過去に新設した学校から見直しを計っていくのが順序のような気がする。(C 案共通)

【不安なこと】

子育てしながら働く世帯が増えることを考えると、送迎の面から小学校（児童クラブ）と保育園は近い方がいい。(G 案共通)

- ・ E案は小学校と公民館が一緒になり、保育園は学校と分かれているが、子育てしながら働く世帯が増えることを想像すると、送迎の視点からも小学校（児童クラブ）と保育園は近い方がいい。

小学校が合併し学校規模が大きくなった上で、小中一貫校にする事で、ますます子どもに目が行き届かなくなることが心配。

- ・ 合併して規模が大きくなった上に、小中一貫校にする事で、ますます子どもに目が行き届かなくなる心配がある。

小中一貫校では、小学一年生と中学生が同じように学んだり行事したりすることや、小学生高学年でリーダーの自覚を養う機会がなくなってしまうか懸念もある。(G 案共通)

- ・ 小中一貫校にすると、小学一年生と中学生が同じように学んだり行事をしたりするのは無理があるので心配である。あと、小学校高学年でリーダーの自覚を養う機会がなくならないか心配である。

西部小が無くなってしまうと、地域の魅力が薄れ、衰退を招きかねない。(A・B・F・G 案共通)

西部地区には公園が無く、小学校の校庭は子どもの遊び場、居場所としても必要。(A・B・F・G 案共通)

小中学校規模適正化方針では、中央小は標準規模を確保しており、あえて分離する必要性を感じない。(C 案共通)

中央小がなくなってしまうと、通っている児童や地域コミュニティはどうなるのだろうか。(C 案共通)

中央小を西部小と南部小に分ける際に、学区境をどこに設定するかが課題。(C 案共通)

中央小が避難場所になっており、避難場所が今より高台に移るのはよいが、遠くなるのは心配だ。(C 案共通)

中学校敷地に多くの施設を集約するが、敷地規模は十分に足りているのか。(B・F・G 案共通)

【提案】

栄町在住の子は塩津小に行くのも良いかもしれない。(C 案共通)

校長が2人体制の小中一貫校よりも、1人体制の義務教育学校の方がスムーズに運営ができると思う。(G 案共通)

- ・ 小学校と中学校が複合化して校長が2名立つのは、運営上に問題が生じるのではないだろうか。連携は意外と難しい印象がある。一貫校にして校長が1名の方が運営がスムーズにいくだろう。

6) F 案「小中学校規模適正化方針 A プランとランドデザインをもとに作成したプラン」

【期待すること】

北部、西部保育園から小学校への一体感が生まれるのは評価できる。(B 案共通)

将来の子どもたちに良質な教育をうけてもらえるならば、統合も前向きにとらえてもいい。(G 案共通)

- ・ 将来の子どもたちに良質な教育を受けてもらえるならば統合も前向きにとらえてもいい。そして今考えなければならぬときとも言える。

【不安なこと】

用地拡大が必要となるため、財政縮減に効果があるとは思えない。西部小敷地が借地であることも気になる。

- ・ 中部中学校の移転のために用地拡大が必要となっている。財政的に、用地所得は莫大

- なコストがかかるので費用対効果を考えると、財政縮減に効果があるとは思えない。
- ・ 西部小学校の跡地に中部中学校を移転させるときの用地拡大について、元々借地であることが気がりであるし、拡大のための費用が心配である。

保育園から小学校の一体感が生まれる一方で、途中から入ってくる子が疎外感を受けないか。(A・B・C・D 案共通)

西部小が無くなってしまうと、地域の魅力が薄れ、衰退を招きかねない。(A・B・E・G 案共通)

西部地区には公園が無く、小学校の校庭は子どもの遊び場、居場所としても必要。(A・B・E・G 案共通)

中学校敷地に多くの施設を集約するが、敷地規模は十分に足りているのか。(B・E・G 案共通)

【提案】

中部中の移転先として西部小敷地が狭いのであれば、北部小敷地へ移転してもいいと思う。

- ・ 中部中の移転先は、西部小学校が狭いなら、北部小学校に移転してもいいと思う。

7) G 案「小中学校規模適正化方針 B プランとランドデザインをもとに作成したプラン」

【期待すること】

小学校と中学校で連携ができるという点は評価できる。(E 案共通)

将来の子どもたちに良質な教育をうけてもらえるならば、統合も前向きにとらえてもいい。(F 案共通)

中学校と公民館を同じ敷地にすることで、思春期の中学生にも良い影響があるのではないか。(E 案共通)

【不安なこと】

小中一貫校になる場合、中央小の生徒だけが途中から一貫校に合流するのは、学習進度や友達づきあいなど、問題が大きいと思う。

- ・ 中部中学が小中一貫校になるのに、中央小学校だけが途中から一貫校に合流するのは、学習進度や友達づきあいなど、問題が大きいと思う。

- ・ 小中一貫校か、小学校中学校隣接させることに関して、教育的なメリットは認めるが、中央小学校のみ中学からの合流はやはり最大の課題。

小中一貫校では、小学一年生と中学生が同じように学んだり行事したりすることや、小学生高学年でリーダーの自覚を養う機会がなくなってしまうか懸念もある。(E 案共通)

西部小が無くなってしまうと、地域の魅力が薄れ、衰退を招きかねない。(A・B・E・F 案共通)

西部地区には公園が無く、小学校の校庭は子どもの遊び場、居場所としても必要。(A・B・E・F 案共通)

子育てしながら働く世帯が増えることを考えると、送迎の面から小学校(児童クラブ)と保育園は近い方がいい。(E 案共通)

中学校敷地に多くの施設を集約するが、敷地規模は十分に足りているのか。(B・E・F 案共通)

【提案】

当事者の考えや条件によって、越境入学など学校選択の自由度があれば良い。

- ・ 中学からの合流が中央小学校のみとなる場合など、当事者の考えや条件によって、越境入学等学校選択の自由度があれば良い。

校長が2人体制の小中一貫校よりも、1人体制の義務教育学校の方がスムーズに運営ができると思う。(E 案共通)

8) 全案に共通すること

【施設の複合化について】

学校施設でも使っていない時間は地域が使うことができるなど、補完しあう関係があれば複合も期待できる。

- ・ 学校施設でも使っていない時間は地域が使うことができるなど、補完しあう関係があれば複合も期待できる。(例えば調理室など)

一つの敷地に多くの施設を入れ込むのは難しいのではないか。

- ・ 一つの敷地に多くの施設を入れ込むのは無理じゃないかと思う。無理して集約化してもデメリットが多いのではないか。

複合化することで様々な人が学校に出入りするのは安全面で心配だ。

- ・ 多くを複合化することで様々な人が学校に出入りでき、不審者など安全性の面で心配がある。

【学校・学区について】

小学校は地域全体にとって重要な役割をもつ施設なので、市の財政面だけで統廃合を決めるのは良くない。

- ・ 小学校は地域全体にとって重要な役割をもつ施設で、予算のメリットだけで学校の統廃合を決めるのは良くない。

小規模な学校のほうが先生の目も届きやすく、子どもにとっても縦割り活動や情緒の安定など良さがあると思う。

- ・ 小規模学校の良さは、コロナ禍の感染防止でもメリットがあったし、子どもが発信する力を養われている。授業中に挙手したら全員が当ててもらえるし、落ちこぼれがない、みんなが主役になれる一方で、タテ割り活動も多いので子どものリーダーシップも養われる。先生の目が行き届きやすい。
- ・ 特に低年齢の児童にとっては情緒の安定につながるので、小規模教育が維持されるのは良い。複合クラスの授業形態も教育効果が上がるので評価できる
- ・ 西部小学校は小規模学校の良さがあるのでなくしてほしくない。
- ・ 小学校も中学校も規模が大きくなるほど、細部まで目が行き届かなくなり、重大な事態になるまで気づかないのではないかと心配になる。
- ・ 自分は中学時代に1学年4クラスだったが、やはり学校はそれなりに荒れていた。

学校の再編により通学距離が長くなり、子ども達の負担が増えることが心配である。昨今の気候なども考慮し、通学の安全性を考えてほしい。

- ・ 学校の集約再編により、今よりも通学距離が長くなる場合、子ども達の負担が大きくなることが懸念される。
- ・ 通学路は短い方が、危険が減るので安心できる。特に小学校。
- ・ 通学距離の基準内とはいえ、低学年の児童が真夏に2 km圏内を歩くのはかなり厳しい。親としては心配であり、気候も含めて徒歩通学の安全性を考えてほしい。4 km圏内という通学距離規準が現在の状況に合っているのか？

現在の学校区を変化させるので、混乱をきたすのではないか。

- ・ 現在の学校校区を変化させるので、混乱をきたすのではないだろうか。現在の地域コミュニティを大切にしたほうがよいだろう。

学校の統廃合により学区が変わったとしても、今の若い世代であればあまり気にならないだろう。

- ・ 統廃合によって学区が変わることについては現役世代は適応できるのであまり気にならない。

西部小が小さいことが問題になっているが、学区を広げることは考えられないのか。

- ・ 西部小学校が小さいことが問題になっているが、学区を広げることは考えられないのか。

【子育て環境（保育園・児童館・児童クラブ）について】

保育園は保護者が送り迎えをするので、通園距離はあまり問題ではない。

- ・ 保育園は送り迎えをするので距離はあんまり問題ではないかもしれない。

保育園は規模が小さくアットホームなものなど、いろいろなタイプが選べることも意味がある。

- ・ 西部保育園は小規模でアットホームなのを評価する人もいる。いろいろなタイプが選べることも意味がある。

児童クラブの人数が増えると子どもたちのサポートはどうなるのか心配だ。

- ・ 学童について、子ども達の数が少人数だからこそそのサポートが受けられることがあるので、集約により、人数が増えると子ども達へのサポートが今よりもどうなるのか心配。学校への集約も好し悪しかと思う。

【公民館について】

公民館が変わってしまうと、地域の伝統が崩れてしまうと思う。地域のつながりを優先するのならば、公民館も各地域に配置されている方がよい。

- ・ 公民館は地域性が根付く場所なので、公民館が変わるのは地域の伝統が崩れてしまうと思う。
- ・ 地域のつながりを優先するならば、公民館の配置も地域レベルで各々に配置されている方がよい。災害時にも効果的である。
- ・ 地域に根差した公民館運営のためには各地区にあるなど、立地条件は大事な指標となる。

防災面や高齢者福祉、障がい者福祉の面から、公民館は歩いて行ける距離にあるとよい。

- ・ 防災面や高齢者福祉、障がい者福祉の面からも、集約しすぎずに生活圏の近くに公民館がある方がよい。

- ・ 施設を集約しすぎると、自宅から遠くなってお年寄りが出て行かなくなる状況が懸念される。防災面でも不利になることがある。歩いて行ける距離だからこそ移動もできる。移動できないと引きこもりや認知症、孤独死を増やすことにもなりかねない。
- ・ 公民館を集合させてしまうことは、お年寄りの利用勝手が悪くなる。
- ・ 災害時の視点からみても公民館は歩いて行ける距離にあるべき。

中央小に公民館が入ると、管理する行政区の見直しが必要になる。

- ・ 中央小に公民館が入ると、管理する行政区の見直しが必要になってしまう。

公民館を地元で管理運営しており、将来的に担い手不足で公民館の存続ができるかが心配。

- ・ 公民館の管理運営を自治組織で行っている。将来的に担い手不足で公民館の存続ができるのかが心配。

2. 評価の視点に対する意見

①地域での活動・交流のしやすさ

世代間交流や、外国籍の方も含めた多様な人の利用がしやすい施設配置となると良い。

- ・ 子ども達と高齢者など、世代間の交流を深めていけるような施設配置、構成であるといい。
- ・ 公民館にお年寄りだけが集まっていることが多い、子どもたち含めて交流をもっと深められるといい。
- ・ 公民館は利用する人と利用しない人がはっきり分かれて、偏りがあることが課題だと思う。多様な人が利用しやすいという視点が重要。
- ・ 外国籍の方へのケアは見落としがちになるので注意すべき。

集約後の施設配置で現在と同等の地域活動が維持できるかどうかは重要だ。

- ・ 集約後の施設配置が、現在と同等の地域活動が維持できるかどうか。

②学校教育環境のあり方

中学校の部活動がなくなるので、部活動で学校を評価しても意味がない。学校再編を機に、学校とクラブ活動は切り離して考えてもよいのでないか。

- ・ 中学の部活動については蒲郡市も部活動をなくす方針だったと思う。今後は学校外の社会体育活動が受け皿なので、将来的に部活動で学校を評価しても意味がない。
- ・ 再編を機に、学校とクラブ活動は切り離して考えてもいいのでは。

③子育てしやすい環境づくり

北部の人たちは子育てしにくいとは思っていないと思うので、今のままでいいと考えている人は多いと思う。

- ・ 蒲郡の北部の人たちは子育てしにくいと思ったことはあまりないのではないかと。今のままでいいと考えている人は多いと思う。

④高齢者の居場所づくり

高齢者にとって移動が容易な場所に施設があるかが重要だ。

- ・ 高齢者による移動のしやすさ

公民館での敬老会などの活動は重要だと思う。

- ・ 公民館での敬老会などの取り組み

⑤安心・安全

通学の安全性は重要な視点だ。人数が少なく、通学団が作れない地区もあり、犯罪も心配。子どもたちの安全・少子化の観点からも配置の検討を行う必要がある。

- ・ 通学（特に小学校）における安全性が確保されているか？
- ・ 247の整備は安全性がたかまったが、他の路地など危ないところはまだまだあるので、通学路の安全性は重要
- ・ 地域によっては人数が少なく、通学団が作れない状況があり、犯罪も心配。子ども達の安全・少子化の観点からも配置の検討を行う必要がある。

災害時における高齢者や障がい者の避難のしやすさなど、バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点も盛り込むべきである。

- ・ 災害時のアクセスのし易さ（特に高齢者や障がい者）。
- ・ 災害が起きた時のお年寄りの避難についてしっかり検討したい。
- ・ バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点を盛り込む。

⑥利便性の確保

⑦将来負担の縮減

運営コストを考慮する必要がある。

- ・ 運営コストが高いか低いか（小学校・中学校の複合化よりも小中一貫校の方が運営コストは縮減出来る）

義務教育学校（小中一貫校）の方が小中連携よりも経費削減、効率化になる。

- ・ 例えば、義務教育学校（小中一貫校）の方が小中連携よりも経費削減、効率化になる。

⑧運営の改善

公民館などの施設を世代間交流の場として、どう活用していくのか考える必要がある。

- ・ 公民館などの施設を世代間交流の場として、どう活用していくか？

施設が複合化していく際に、各施設の機能を有効活用することが重要である。

- ・ 施設が複合化していく際に、各施設の機能を有効活用できるかどうか？

その他

将来世代にとって魅力ある公共施設であるかという視点が必要。魅力、安全性、実行力をまず検討し、その上で適正化や効率化を考えていくのが良いのではないか。

- 将来の社会変化や将来世代のニーズを考えると、公共施設マネジメント基本方針にある「魅力」を優先して考える必要があるのではないか。将来世代にとっての魅力づくりに貢献しているかどうか？という視点を評価に加える必要があるのではないか。
- 数合わせ、施設縮減、経費削減の視点だけになってしまっているのではないか？魅力化という視点も評価項目に必要ではないだろうか。
- 将来を見据えて基本方針の魅力、安全性、実行力を検討し、その上で適正化や効率化を考えていくのが良いのではないだろうか。

サポートが必要な人たちをどう支えていくのかという視点が少ない。

- 地域福祉、障がい者福祉等サポートが必要な人たちをどう支えていくかの視点が少ない。

3. その他

各案のデメリットばかりでなく、メリットを重点的に話し合った方が建設的に話し合えるだろう。

- ・ 話し合いの全般について、各案のデメリットばかりでなく、メリットを重点的に話し合った方が建設的に話し合える。

このワークショップで議論されていることが、最終決定ではないという説明もあった。社会状況は刻々と変化していくので、再配置案を実行する時点で、改めて地域のコンセンサスを取る必要があるのではないか。

- ・ ここで議論されていることが最終決定ではないという説明もあった。社会状況は刻々と変化していくので、再配置案を実行する時点で、改めて地域のコンセンサスを取る必要があるのではないか。

全市的な視点で施設の活用や配置を考え、その上で生徒数や規模のバランスをとるための調整というのも必要ではないだろうか。

- ・ 蒲郡市ほどの規模ならば、地域ごとの視点もあれば、全市的な視点での施設の活用や配置を考えるのも良いのではないだろうか。
- ・ 現在は中学校校区単位で議論をしているが、小学校や中学校の統廃合や再配置を考えるならば、全市的な視点で議論することも必要ではないか。その上で各校の生徒数や規模のバランスをとるための調整というのも必要ではないだろうか？
- ・ ただし、その場合行政区や校区の再編になっていくので、大変革が起きることも懸念される。

感染症との付き合い方がまだ確立していない状況で、施設の統廃合を決めるのはとても心配だ。今後、学校の適正規模が小さく見直されるかもしれない。

- ・ 感染症との付き合い方がまだ確立していない状況で、学校や公共施設の統廃合をいま決めてしまうことがとても心配だ。もしかすると、今後は学校の適正規模が小さく見直されるかもしれない。

人口は推計よりもっと減るのではないか。計画のためにはもっとシビアに見ることも必要である。

- ・ 人口は推計よりもっと減るのではないか。計画のためにはもっとシビアに見ることも必要である。

時代の流れや、将来世代への負担を考えると施設を統廃合していくのは納得できるので、実際の費用を確認したい。

- ・ 将来世代への負担を考えると、費用面は気になる。数字を見ながら確認したい
- ・ 時代の流れのなかで統廃合していくのは納得できる。

現状あるものを長寿命化するという考え方が第一であろう。国が考えを示したときも長寿命化するほうが良いとしている。

- ・ 新たな施設を建てる、新たな土地を購入することは財政的には健全ではないと思うので、現状あるものを出来る限り延命するという考えが第一だろう。国が公共施設マネジメントの考えを示したときにも延命するほうが良いと示している。

統合や複合化をする代わりに、全市的な施設で機能を充足されるとよい。

- ・ 統合や複合する代わりに、全市的な施設で機能充足されるとよい。

中央小学区は地域外からきた人が多く、他地区と比べて地域交流が薄い印象だ。

- ・ 中央小学区では、地域外から来た人が多いと思うので、地縁コミュニティのつながりが薄く、中央小が分断されることによる抵抗感の意識は薄いのではないか？
- ・ 中央小学区内の緑町は比較的新しいまちであり、西部小や北部小学区と比べて地域交流が薄い印象である。

学区と自治会のズレがある地域もあり、お祭りや子ども会等で弊害が生じているため整合をとる必要があるが、整理は難しいとも感じる。

- ・ 神ノ郷地区の居住者は、学区と地域の自治会とのズレが生じており、お祭りや子ども会等に参加できない弊害がある為、地域コミュニティと学区の整合性があるといい。
- ・ 中央通りで東と西で総代区が分かれるところがあるなど、学区境と総代区は入り組んでいる。このあたりをさらに変えるとなるとまた問題が大きくなっていくのではないだろうか。

学校が再編されると子どもの通学距離が伸びる。人数が少なすぎて集団登校ができない地域や、抜け道として大型車等が通行する地域もあるので、子どもの安全面から考えてもスクールバスを導入してほしい。

- ・ スクールバスが運行されれば、集約化する案のデメリットがカバーできると思う。公共施設の再編に関わらず、スクールバス運行はメリットが大きいので率先してやってほしい。
- ・ 学校統廃合によって通学が遠くなると、ますます通学の安全（交通事故、防犯の面）が心配になる。国道 23 号から大型トラックが地域の道路に入ってくる。部活帰りは畑の道は暗くて危険。合理的に予算が削減された分、スクールバスなど通学の安全対策に充ててほしい。

- ・ 幹線道路でなくても猛スピードで通り抜けする自動車を多く見かけるので、北部小でも現状で遠くから通う子どもがいて、現状でもスクールバスはありと安心。
- ・ 西部小学区では少人数過ぎて集団登校が出来ないような場合があるので、通学距離的な条件はともかく、学校の再編にあたっては安全面や防犯面の点からスクールバスを運行してほしい。

コミュニティバスをスクールバスとして活用することができないか検討してほしい。

- ・ くるりんバスを通学バスとして活用することが可能かどうかを検討

少人数教育を市内全域で進めるべき。

- ・ できるなら市内全域で少人数教育を進めるべきだと思う。それにたくさんのお金がかかるというのも理解しているが、少子化の流れにそって小規模教育に自然にシフトしていくのがよいと考えている。

学区に関係なく、行きたい学校を選ぶ自由があっても良いのではないだろうか。

- ・ 学校を選ぶ自由があっても良いのではないだろうか。

現在の公民館は高齢者の集会所というイメージがある。生涯学習拠点として、親世代を含めた多世代が関わる活動が重要だ。

- ・ 公民館の役割そのものが全世代に浸透していくことが必要だろう。退職後のシニアの人が集まる集会場というイメージがある。一方で今の元気なシニアの方は公民館活動にあまり参加されない。世代間の交流を考えると父親世代がどうかかわってくるか？生涯学習という視点で学校や公民館とのかかわりが大切になってくるのではないか。親世代と公民館活動の関係が大きく関わってくるだろう。

将来の教育の在り方を考えると、生涯にわたる教育を提供する場が必要である。そうした機能が各中学校区にあるとよい。

- ・ 将来の教育の在り方を考えたときに就学前教育や成人教育、外国人への教育など生涯にわたる教育を提供する機関・場が必要になるのではないだろうか。そういう機能を持つ学校が各中学校校区にあるのが良いのではないだろうか（公民館に代わる機能）

公民館活動でも名簿が開示されないなど、地域活動における個人情報の問題が障壁になっている。改善できないか。

- ・ 公民館での敬老会目的でも名簿が開示されないなど、地域活動にとって個人情報保護の問題が障壁になっている。改善できないか。

蒲郡は海があるのだから、市民プールがないのは恥ずかしい。市民プールをつくってほしい。

- ・ 蒲郡は海があるのだから、市民プールがないのは恥ずかしい。市民プールをつくってほしい。

4. 質問

- ・ 「地域に根ざした中学校」の具体的な意味が想像できない。
- ・ 小学校、中学校の集約化を評価する前に、小さな規模、大きな規模のメリット、デメリットについて整理して提示してほしい。
- ・ 複合化などで機能廃止後の公民館活用のイメージのために、他地区の地域による運営状況等の事例を知りたい。（蒲形公民館、犬飼集会所が参加者から事例としてあがりました。）
- ・ 学区と総代区のズレ等の問題意識があるが、学区堺を変える計画検討などは今までなされていないのか。
- ・ G案と同じように小中一環や小中隣接の中に、中学から途中合流する学区が混在するパターンの問題をきちんと把握したいため、事例があれば知りたい。
- ・ 各プラン毎のコスト試算が把握できなければ評価の仕様がなない。少なくともこれまで議論されてきたA～E案については試算があがってくるべきではないだろうか。
- ・ 西部保育園以外に借地になっている施設はあるのでしょうか？
- ・ 保育園と小学校、公民館を集合・複合化させることが理解できない。個別に建て替えるのと、集合化させることに、財政的にどの程度の差があるのか？一概に複合化が妥当であるとは言いにくいのではないだろうか？
- ・ 西部保育園と北部保育園の集合で、北部保育園の敷地に行く理由は何か？